

【施設紹介】

本院は、1983年10月に福井医科大学医学部附属病院として開院され、その後2003年10月に福井大学と福井医科大学の統合により、現在の福井大学医学部附属病院に名称が変更されました。県内雄一の特定機能病院として研究・開発・実践に取り組み、地域における中核病院として質の高い医療を提供しています。2014年に新病棟400床が竣工され、その後に外来の改修を進めて2018年には病院再整備が完了しています。



【組織・人員管理体制】

放射線部は、部長(教授)・副部長(准教授)・診療放射線技師で構成されています。2021年4月現在、診療放射線技師は33名が在籍しており、診療放射線技師長1名、副診療放射線技師長3名、主任診療放射線技師8名で組織及び人員管理を行っています。

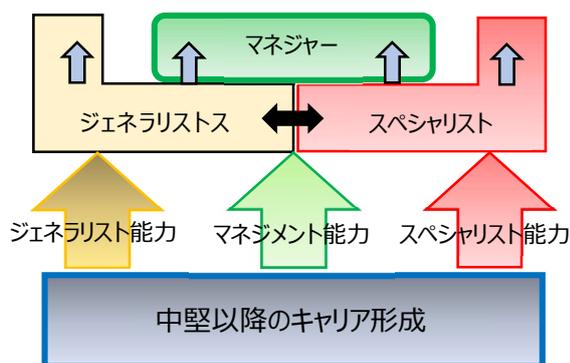
2009年には診療支援部が発足されました。部門は臨床検査部門・放射線部門・リハビリ部門・臨床工学部門・歯科部門・眼科部門で6つの部門で構成されており、現在126名の部員が在籍しています。業務・安全・教育・広報の4つの委員会を設けて活動を行っており、定期的に連絡部会を開催し、部門間の情報共有を図っています。

【基本方針・基本理念】

本院は「最新・最適な医療を安心と信頼の下で」を基本理念として、個々の患者さんの意思を十分に理解した上で、最適な医療を提供することに努めています。2003年9月には、総合的評価の国際規格であるISO9001を認証取得し、医療安全及び感染対策にも力を注いでおり、常に安心できる診療体制を目指しています。

【新人教育・人材育成】

入職1年目は、主に一般撮影部門とCT検査部門に配属され、夜勤対応に必要なスキルを身につけることを目標にしています。2~3年目は、他の部門にも配属し様々なモダリティの経験を積ませることで臨床現場での対応能力を高めています。中堅以降のキャリア形成には複数のルート(ジェネラリスト、スペシャリスト、マネジャー)があり、それぞれの能力を高めながら、将来、目指すべきルートを個々が選択できる仕組みを検討しています。



【放射線部の紹介】

放射線部における基本方針としては「業務の見える化」「情報共有」「協力体制」の3つを掲げており、年度ごとに個人目標を設定し、その目標に向かって取り組んでいます。

放射線部受付前の通路には郵便ポストが置かれています。院内のサイン表示が非常にわかりにくいこともあり、誰もが聞いたり見たりして理解できるものは何かと考えた結果、この「赤いポスト」が約20年前に設置されました。当初は、経費の無駄とか通行の邪魔だとの厳しい意見もありましたが、現在では患者さんやスタッフにもとても好評な目印になっています。



部門は一般撮影部門・血管造影部門・CT 検査部門・MRI 検査部門・核医学部門・放射線治療部門の6部門に分けられて、それぞれの主任が統括しています。

一般撮影部門は6室あり、頭部・歯科撮影室、小児撮影室、胸腹部撮影室、骨撮影室①②、乳房撮影室に分かれています。乳房撮影室にはトモシンセシス機能を有するデジタルマンモグラフィ装置が導入され、マンモトーム生検にも対応しています。X線TV装置は、放射線部に4台、光学診療部に1台設置されており、泌尿器科及び婦人科の検査にも対応しています。その他では骨密度測定装置1台と結石破碎装置1台が稼働しています。

血管造影部門には4台の装置が稼働しており、頭部、心血管、腹部&下肢、アブレーションの用途に応じて検査が振り分けられています。その他に手術室にHybrid装置が1台設置されており、ステントグラフト内挿術や経カテーテル大動脈弁置換術に対応しています。

CT検査部門は、192列CT装置と64列CT装置の2台が稼働しており、その他に救急専用の64列CT装置が救急部に設置されています。192列CT装置は2管球を有しており、主に循環器系の検査に対応しています。

MRI検査部門は、3TMRI装置2台と1.5TMRI装置1台が稼働しており、1日40件程度の検査を行っています。検査予約時に放射線部で体内金属等をチェックする問診システムを導入しており、MRI検査の安全性に大きく寄与しています。

核医学部門は、PET-CT装置1台、SPECT-CT装置2台が稼働しています。最近では、内用療法の依頼も増加しており、骨転移に有効な塩化ラジウム（アルファ線）や悪性リンパ腫にゼバリン Y-90（ベータ線）を用いた治療も行われています。

放射線治療部門は、リニアック装置2台、治療計画用CT装置1台、小線源装置1台、温熱療法装置1台が稼働しています。2020年度には小線源装置のバージョンアップが行われましたが、2022年度にリニアック装置の更新計画があり、最新の装置が導入される予定です。

部内では毎朝8時15分～技師全員での連絡会を行っており、各部門で前日に起きた機器トラブルやオカレンス等の報告を行い、情報共有を図っています。また、当日の急な休暇による業務変更にも迅速に対応しています。

【学術研究】

部内には学術研究班を設けて学術研究のサポートを行う体制を整えています。学術研究班のメンバーは、博士の学位取得者により構成されており、研究の背景・目的・方法・スライド作成等の相談を受けながら、適切に指導を行い最終的にはすべて論文化を目標にしています。現在、博士3名の学位取得者がおりますが、新たに4名が博士後期課程に在籍中であり、働きながら大学院で学ぶことができる環境が整っています。

【装置更新】

3T-MRI 装置2台が3月末に更新される予定です。この装置は充実したアニメ等の映像システムが装備されているため、小児検査には有効であり、検査前の鎮静が不要となり患者さん及びスタッフの負担が減らすことができます。また、画質低下を抑えた最新の高速撮像技術が搭載されており臨床現場への貢献は非常に大きい。

又、2月に導入予定のリニアック装置には放射線ビームの照射野を超高速で開閉するバイナリ・マルチリーフが搭載されています。強度変調放射線治療（Intensity Modulated Radiation Therapy: IMRT）を得意としており、高精度放射線治療の品質を担保しています。



フィリップス社 Ingenia_Edition X



アキュレイ社 Radixact

【福井県の紹介】

福井県は、日本のほぼ中央に位置している人口76万の小さな県です。山と海に囲まれた自然豊かな環境であり、冬の味覚・越前カニは全国的にとっても有名です。福井市東部に位置しており、近くには「丸岡城」があり、現存する12天守の一つで国の重要文化財にも指定されています。

【編集後記】

当院には最新の装置が導入されており、診療・研究・教育ができる環境は整っています。一緒に働いてみませんか？現在、意欲のある方を募集中ですので一報をいただければ嬉しい限りです。皆さまからのご連絡をお待ちしています。

